Gastro-Health Now

認定ＮＰＯ法人
日本胃がん予知・診断・治療研究機構
Certified Non Profitable Organization
Japan Research Foundation of Prediction,
Diagnosis and Therapy for Gastric Cancer (JRF PDT GC)

目　次

◆ 横須賀市における胃がんリスク検診について …1
◆ 平成 25年度決算報告書（第6期） …3
◆ あとがき・お知らせ……4

印刷　城南印刷工芸(株) 03-3752-3391

発行所　認定NPO法人
日本胃がん予知・診断・治療研究機構
〒108-0072
東京都港区白金１丁目17番２号
白金タワーテラス棟 609号室
電 話　03-3448-1077
FAX　03-3448-1078
E-mail : info@gastro-health-now.org
http://www.gastro-health-now.org

2014.6.15
第31号

横須賀市における胃がんリスク検診について

はじめに

横須賀市は神奈川県横浜市の南、三浦半島のほぼ中央に位置する人口約41万人の自治体です。当市では市民検診として以前から行われていた胃Ｘ線検査(以下Ｘ線法)に加えて、平成13年10月から血清ペプシノゲン検査(以下PG法)を取り入れ、受検者の希望でどちらかを行っていました。平成24年度からはＸ線法を全廃して、PG法と血清ヘリコバクターピロリIgG抗体検査(以下HP検査)を組み合わせた胃がんリスク検診を導入しました。

胃がんリスク検診導入のいきさつ

Ｘ線法の受診率は2%前後、胃がん発見率は0.1%前後であり、平成19、22年度の発見胃がんは0件でした。また撮影技術や読影医の高齢化などの問題もあり、22年度には、行政側にＸ線法とPG法の費用対効果の概算とともに、胃がんリスク検診について繰り返し説明をしました。医療関係者には、三木一正先生を始め第一線で活躍されている先生方に講演をお願いして啓蒙しました。行政側の理解も非常に良好で、24年度からＸ線法を全廃して、40歳以上全員に市民検診として胃がんリスク検診が行われることになりました。（表1）

平成 24 年度の現状

胃がんリスク検診(ABC検診)マニュアル2009に従い、HP抗体10.0U/ml以上をHP検査陽性、ＰＧＩ70.0ng/ml以下かつPGⅠ/Ⅱ 3.0以下をPG法陽性とし、A,B,C,D群に分類しました。A群のうち除菌歴のあるもの、および胃・十二指腸潰瘍の既往があるものはB群としました。BCD群を要精査群とし、上部消化管内視鏡検査を行うこととしました。

・横須賀市医師会胃がん検診担当理事
・中央内科クリニック院長
松　岡　幹　雄

対象者数139,290人、受診者数21,772人、受診率15.6%でした。各群の割合はA群53%、B群27%、C群17%、D群3%でした。（図1）要精検者数10,304人、要精検率47.3%、精検受診者8,162人、精検受診率79.2%、発見胃がん108例、がん発見率0.5%(早期がん85例、進行がん23例)でした。胃がん以外の消化器がんは、食道がん12例、胃悪性リンパ腫4例、十二指腸がん2例、胃MALTリンパ腫1例の計19例発見できました。検診実施医療機関136施設、精密検査実施医療機関62施設でした。（表2）発見されたがんの治療法は、内視鏡的治療35%、腹腔鏡下手術24%、開腹手術30%、化学療法5%、その他4%、不明2%でした。（図2）

表1　横須賀市胃がん検診（平成19年度～）

	対象者数	受診者数			受診率(%)		要精密検査数		精検受診者数		精検受診率(%)		発見胃がん数				
																早期(%)	進行(%)
平成19年度	120,500	X線	2,299	16,909	1.9	14.0	389	3,434	202	1,757	51.9	51.2	X線	0	34	0	0
		PG法	14,610		12.1		3,045		1,555		51.1		PG法	34		28(82.4)	6(17.6)
平成20年度	121,960	X線	2,015	14,535	1.7	11.9	384	3,310	230	1,740	59.9	52.6	X線	2	20	2(10.0)	0
		PG法	12,520		10.3		2,926		1,510		51.6		PG法	18		10(50.0)	8(40.0)
平成21年度	132,918	X線	2,432	18,958	1.8	14.3	397	4,594	259	2,854	65.2	62.1	X線	2	47	0	2(4.3)
		PG法	16,526		12.4		4,197		2,595		61.8		PG法	45		26(55.3)	19(40.4)
平成22年度	124,519	X線	2,245	19,064	1.9	15.3	388	4,174	254	2,644	65.5	63.3	X線	0	31	0	0
		PG法	16,639		13.4		3,786		2,390		63.1		PG法	31		19(61.3)	12(38.7)
平成23年度	124,519	X線	2,947	20,809	2.4	16.7	455	3,907	310	2,460	68.1	63.0	X線	3	39	1(2.6)	2(5.1)
		PG法	17,862		14.3		3,452		2,150		62.3		PG法	36		21(53.8)	15(38.5)
平成24年度	139,290	リスク検診		21,772	15.6		10,304		8,162		79.2		108			85(78.7)	23(21.3)

表2　平成24年度 胃がんリスク検診結果

対象者数	受診者数	要精検者数	精検受診者数	発見胃がん		
	受診率（%）		精検受診率（%）			
139,290	21,772	10,304	8,162	108	早期	85(78.7%)
	15.6 %		79.2 %		進行	23(21.3%)

胃がん以外の消化器がん	19 例
食道がん	12 例
胃悪性リンパ腫	4 例
十二指腸がん	2 例
胃 MALT リンパ腫	1 例
検診実施医療機関	136 施設
精密検査実施医療機関	62 施設

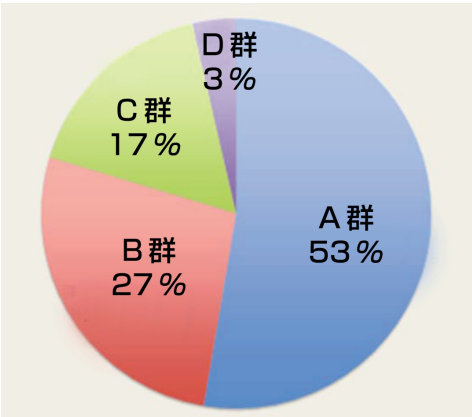

図1　ABCD群の割合

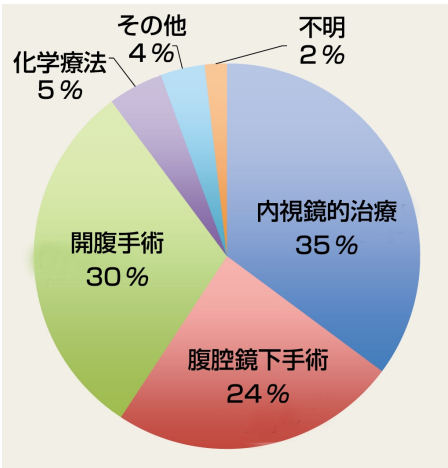

図2　発見されたがんの治療法

まとめ

横須賀市では、平成24年度に胃がんリスク検診を導入し、108例の胃がん(早期がん85例、進行がん23例)がみつかりました。発見数が大幅に増えた理由としては、要精検率の高さ、精検受診率の高さ等が考えられました。また胃がん発見という目的以外にも、8162人が上部消化管内視鏡検査を受け、必要に応じて除菌が行われているので、今後の胃がんの発生抑制が期待されます。

決算報告書（第6期） 自　平成25年4月1日　至　平成26年3月31日

認定NPO日本胃がん予知・診断 治療研究機構

【貸借対照表】

平成 26 年 3 月 31 日現在（決算）

科　　目	当年度	前年度
Ⅰ資産の部		
流動資産		
現金預金	2,669,782	891,518
現金	11,540	12,172
三菱東京UFJ銀行	2,622,352	863,096
ゆうちょ銀行	35,890	16,250
前払金	165,000	
仮払金		3,528
流動資産合計	2,834,782	895,046
固定資産		
その他固定資産		
器具備品	952,368	826,288
敷金	165,000	165,000
その他固定資産合計	1,117,368	991,288
固定資産合計	1,117,368	991,288
資産合計	3,952,150	1,886,334
Ⅱ負債の部		
流動負債		
未払金	1,997,751	1,283,073
預り金	46,781	82,931
前受金	3,000	16,000
流動負債合計	2,047,532	1,382,004
固定負債		
減価償却累計額	880,605	784,163
固定負債合計	880,605	784,163
負債合計	2,928,137	2,166,167
Ⅲ正味財産の部		
一般正味財産	1,024,013	△279,833
正味財産合計	1,024,013	△279,833
負債及び正味財産合計	3,952,150	1,886,334

【収支計算書】

平成25年4月1日から平成26年3月31日（決算）まで

科　　目	予算額	決算額
Ⅰ事業活動収支の部		
経常収入		
会費収入	3,000,000	3,012,000
正会員会費収入	500,000	147,000
賛助会員会費収入	2,500,000	2,865,000
事業収入	2,100,000	3,911,490
出版物等発行事業収入	1,100,000	1,163,390
検査キット監修収入	1,000,000	1,518,100
講演会収入		1,230,000
寄付金収入	5,000,000	5,095,000
寄付金収入	5,000,000	5,095,000
その他収入	1,000	640
受取利息	1,000	640
他会計からの繰入収入	500,000	2,503,000
その他事業会計からの繰入金	500,000	2,503,000
経常収入計	10,601,000	14,522,130
経常支出		
事業費支出	9,045,000	9,692,123
シンポジウム・講演会開催事業費	200,000	139,947
教育研修事業費	100,000	61,740
広報、啓蒙事業費	1,000,000	1,498,666
調査研究事業費	500,000	180,998
学術団体との連絡及び連携事業費	300,000	32,000
機関紙及び研究報告書発行事業費	1,500,000	1,419,995
旅費通信費支出	200,000	375,066
事務用品費支出	500,000	731,691
出版物等発行事業費	820,000	
給料手当支出	1,350,000	1,504,888
光熱水料費支出	100,000	116,789
賃借料支出	1,600,000	1,628,800
保険料支出	15,000	
会議費支出	50,000	
租税公課支出	360,000	277,900
手数料支出	450,000	1,723,643
管理費支出	1,056,000	926,719
給料手当	120,000	144,972
福利厚生費	10,000	19,442
会議費		1,320
旅費交通費	30,000	19,020
通信運搬費	50,000	65,635
器具備品費	80,000	37,709
修繕費	50,000	
事務用品費	64,000	193,429
光熱水料費	40,000	29,052
地代家賃	396,000	363,800
保険料	5,000	
新聞図書費		2,100
租税公課	10,000	4,200
支払手数料	200,000	46,040
雑費	1,000	
他会計への繰入金支出	500,000	2,503,000
特定非営利活動事業会計への繰出金	500,000	2,503,000
経常支出計	10,601,000	13,121,842
事業活動収支差額	0	1,400,289
Ⅱ資産活動収支の部		
資産活動支出		
固定資産取得支出	0	126,080
器具備品購入支出		126,080
資産活動支出計	0	126,080
資産活動収支差額	0	△126,080
Ⅲ財務活動収支の部		
財務活動収支差額	0	0
Ⅳ予備費支出		
当期収支差額	0	1,274,208
前期繰越収支差額	0	△486,958
次期繰越収支差額	0	787,260

監　査　報　告

私は、第６期収支計算書、貸借対照表及び財産目録から構成される決算報告書を監査した結果、正確であることを認めます。

平成26年5月20日

監事　竹内靖二

竹内靖二

平成26年度　認定NPO日本胃がん予知・診断・治療研究機構　役員等名簿　（五十音順）

理　　事　三木　一正（理事長）、乾　純和（副理事長）、降旗　俊明（副理事長）、伊藤　史子、稲葉　　裕、神保　勝一、多田　正大、藤田　安幸、茗荷　昭男

監　　事　竹内　靖二

告知　実務セミナー「第５回　ＡＢＣ検診ゼミナール」開催のお知らせ

日　時：**７月１６日(水)　14:40～16:20**（14:30 開場　16:30 閉場）

場　所：**白金タワー棟内　１階フォーラム１７会議室**　東京都港区白金 1-17-1
都営三田線・東京メトロ南北線「白金高輪」駅　４番出口直結徒歩５分

プログラム

■ 講演１　北里大学病院・東病院　職員の ABC 検診（仮題）
講師　竹澤　三代子（北里大学医学部消化器内科学講師）

■ 講演２　企業における胃がんリスク検診の好事例の紹介～採用に際しての共通した「考え方」と「進め方」について～
講師　岡本　昌也（富士フイルムメディカル株式会社　社長特命 がん検診プロジェクト）

■ 質疑応答・意見交換

対象：健康保険組合で健診(検診)を担当されている方、その他。参加費は無料です。
申込みは、当NPOサイトより、申込用紙（PDFデータ）をダウンロードしてFAXにてお申込みください。
意見交換をしやすい規模を考え、定員は30名（先着順）とさせていただきます。

あとがき

筍堀の名人は、地面を踏んだ微妙な感覚で、まだ地下深くに眠っている筍を探り当て、掘り出すそうです。頭を出してしまった筍は、固くて商品にならないからです。足で場所をぴたりと探し当て、地中から傷つけないように筍を掘り起こす、その職人技を見て驚きました。

このたびは横須賀市から素晴らしい報告をいただきました。「胃がん発見数、発見率、早期胃がん率とも、従来のＸ線法による胃がん検診を大きく上回っている。」こう書くと必ず、長く続けてきたＸ線検診と、新規導入の胃がんリスク検診を同列に比較評価することはできないとお叱りを受けます。新規のがん検診導入時には「掘り起し効果」があり、それまで見つかっていなかったがんが一気にまとまって見つかるので、繰り返し実施している場合に比べてがん発見率は高くなるからです。しかし、横須賀市の胃がんリスク検診は新規導入とはいえ、同じフィールドで同じ胃がんをターゲットにした検診が機能せずに、眠っていた胃がんを「掘り起こした」のです。半数以上の症例が手術、化学療法にまわっていることを考えても、今回の胃がんリスク検診による胃がん「掘り起こし」が、市民の救命に直接結びついているといえます。しかしながら２１%は進行がんであったこと、そして内視鏡治療症例が全体の３５%しかないことは、今後の課題でもあります。

筍堀の名人のように、胃がんを予知してできるだけ早期に探り当てることが、胃がんリスク検診の真の目的です。(M)

事務局より　お知らせ

■ 平成２６年度　ご支援のお願い

みなさまのご支援をお願いいたします。

【会費】平成26年度（平成26年4月1日～平成27年3月31日）
賛助会費　（個人）1口3000円　（法人）1口30,000円
【寄附】平成26年度（平成26年4月1日～平成27年3月31日）
当機構は平成25年5月29日に認定NPO法人になり、ご寄附下さる方に税制上の優遇措置がございます。

■ 平成２６年度　主な事業予定

1）学術講演会「白金カンファレンス」（年1回）開催
2）実務者セミナー「ABC検診ゼミナール」（年10回）開催
3）NPOサイトを通じた情報発信とABC検診実施機関検索サイト運営
4）機関紙「Gastro-Health Now」発行
5）『胃がんリスク検診（ABC検診）マニュアル』改訂

■ お振込み先

お振込み先　＊三菱東京ＵＦＪ銀行 目黒駅前支店　普通預金 No. 0008527
特定非営利活動法人 日本胃がん予知・診断・治療研究機構 理事長 三木 一正
＊郵便振替　00130-9-429200 日本胃がん予知・診断・治療研究機構

☆お振込の際、ご親族・職場等、複数の会員様でまとめる場合は、お手数ですが払込取扱票の通信欄に全員のお名前をご記入下さい。

■ 転居・所属変更・退会希望等は、お早めに電話・FAX・メールにて事務局までお知らせ下さい。